

以下の「論文タイトル」及び「論文概要」は、発表申込書から作成しています（順序不同）。研究会当日の発表では、都合により、タイトルや内容が一部変更になる可能性もあります。

●論文タイトル

人口減の時代に、医療と向き合う要点の調査研究5  
～服薬指導と行動変容に関する考察～

●論文概要

人口減と労働衛生の向上を背景に、我々のライフスタイルと医療のあり方が変化している。服薬指導においては、令和元年の薬機法改正により、オンラインによる対応が認められるようになり、患者さんのアドヒランスについて、改めて考える機会となった。また、オンライン診療も身近な存在になりつつある。

最近、行動変容を企図する医療機器であるアプリや、服薬サポートをするアプリが登場し、患者さんを支えるあり方にも変化が生じている。行動変容に関しては調査研究等が行われており、服薬指導において、アドヒランスコミュニケーションに何が影響するかを考察する。

●論文タイトル

電子機器操作のメンタルモデルの構築度合と操作方法の確認行動の関係性における世代間差

●論文概要

電子機器一般の操作についてのメンタルモデルの構築度合と、マニュアルやカスタマーセンター等において操作方法を確認する行動の関係性について、世代間差がみられるか検討を行った。その結果、メーカーが作成した動画や、YouTube等で共有されている第三者が作成した動画を確認する程度は、20代および30代の参加者でメンタルモデルの構築度合の高い場合に顕著であった。その一方で、40代から60代においてはこのような傾向はみられなかった。これらのことから、動画による機器操作の説明は、メンタルモデルが十分に構築できている若年の世代においてのみ理解される方法で、他の属性のユーザーには有効性が低い可能性が示唆された。

●論文タイトル

対象に触れることは動作の理解を促進するのか  
把持動作の方向と対象の熟知性に関する検討

●論文概要

本研究は、他者の把持動作の方向を理解することにおいて、把持対象を実際に把持していることが影響するかどうかを調べたものである。動画で提示された把持動作が正しく行われているかどうかを判断する課題を行い、その反応時間を測定した。その結果、単純な直方体を把持対象として行った場合と（研究I）、把持の経験のある見慣れた対象とそうでない対

象を比較した場合（研究 2）のどちらにおいても、把持対象を把持している場合のほうが把持していない場合よりも反応時間は短いことが示された。

●論文タイトル

ビジネス文章に対するフィードバック方法の比較検討

●論文概要

文章指導における効率的かつ効果的なフィードバック方法を明らかにするために実験を行った。実験では、協力者 42 名が書いた練習問題の文章に対し、3 種類のフィードバック（問題個所に色を塗って指摘，コメントにより指摘，解答例を提示）を行った。実験前および実験後の文章の採点結果を比較した結果，どのフィードバックも実験前よりも実験後のほうが得点が有意に上がったが，フィードバック間には有意な差はなかった。しかしながら，フィードバックに関するアンケート結果では，満足度および修正箇所のわかりやすさにおいて，問題個所に色を塗って指摘した群よりもコメントにより指摘した群のほうが評価が高かった。

(23.07.14)